

「リー・フラウメニ症候群診療ガイドライン」への
パブリックコメントへの返答につきまして

令和2年3月11日

日本遺伝性腫瘍学会会員の皆様

拝啓

この度は平成29～令和元年度厚労科研補助金（がん対策推進総合研究事業）「小児期に発症する遺伝性腫瘍に対するゲノム医療体制実装のための研究」班で作成しました、「リー・フラウメニ症候群診療ガイドライン」に対しまして、多くのパブリック・コメントを頂き誠に有難うございました。対応表を作成致しましたので、ガイドライン2019年度版とともにご確認頂きたく存じます。なお、対応表は、パブリックコメントを日本小児血液・がん学会でも公募致しましたので、貴学会への対応表と合わせたものとなっております。

本ガイドラインでは、保険適用外であります *TP53* 遺伝学的検査やがんサーベイランスを推奨していますが、これらに対する否定的なご意見はございませんでした。また、本ガイドラインの完成を待望されるコメントも多く頂き、がんゲノム医療が普及しつつある昨今において、学会員の皆様が遺伝性腫瘍診療に多大なご興味を抱いておられることが示唆されました。

本ガイドラインが皆様の診療の一助となればと存じます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

研究代表者
熊本忠史
国立がん研究センター
中央病院小児腫瘍科
東京都中央区築地 5-1-1
電話：03-3542-2511
tkumamot@ncc.go.jp